飛鶴の森林から

発行日
2015年１月８日　第94号
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

釧路湿原自然再生協議会 第24回再生普及小委員会

12月19日（金）、釧路湿原自然再生協議会 第24回再生普及小委員会が釧路地方合同庁舎で開催されました。

釧路湿原自然再生協議会には、湿原再生、旧川復元、森林再生、水循環、再生普及、土砂流入の６つの小委員会があります。

再生普及小委員会は、自然再生の各実施計画を専門的に取り扱う森林再生小委員会等の５つ小委員会とは別に、自然再生事業全体をとおして市民参加や環境教育を進めて行く取組の立案や推進方策を協議する場となっています。

なお、再生普及小委員会には、「再生普及行動計画ワーキンググループ」と「環境教育ワーキンググループ」の２つが設置され、活動しています。

ちなみに、釧路湿原の自然再生と地域・市民をつなぎ、ネットワークを広げるためのプロジェクト。ワンダくんとグリンダちゃんで、お馴染みの釧路湿原の保全や再生に関わる活動であれば、だれでも参加するこのワンダ・グリンダ・プロジェクトは活動の一つです。

今回の小委員会では、再生普及行動計画、環境教育、２つのワーキンググループの経過報告として、取組の状況等の説明があり、引き続き「再生普及行動計画の見直しについて」と題し、第３期釧路湿原自然再生普及行動計画（案）等が事務局から示されました。

第24回 再生普及小委員会（釧路地方合同庁舎会議室）

これは、釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を推進するための５年計画で、現行の第２期釧路湿原自然再生普及行動計画（平成22年度～平成26年度）が終期を迎えるため、第２期計画を継承しつつ、新たな目的を盛り込み、２つのワーキンググループの変更、ワンダグリンダ・プロジェクトの一部変更等、進行管理と推進体制等を一新するもので、次の５カ年に向け、委員による意見交換と検討が行われました。

★星章をつけた林業機械 ①

昨年、大学生の皆さんがパイロットフォレストを見学で訪れた時のことです。管理棟で、パイロットフォレストの記録映像を見てもらいながら、当時活躍した林業機械を展示したところ、昔ながらのチェーンソーが大人気となり、いろいろな質問を頂きました。

見学した生徒さんには、かなりの老頭児にしょうがない、パイロットフォレスト造成時とまた、機械音痴のたまいえば、私の生まれる前のこと。チェーンソー等の林業機械のそこで、チェーンソーの歴史を勉強することにしました。

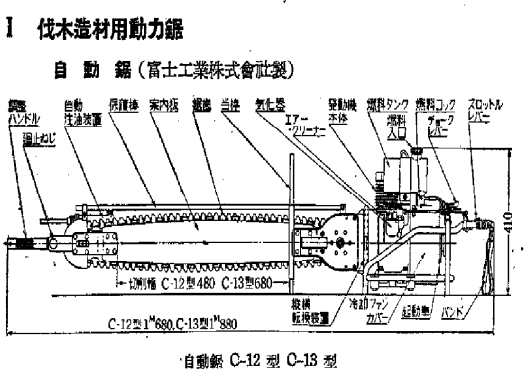
しかし、最近の本を読んでも、高性能林業機械等が中心に書かれていて、あまり参考にならなかなりませんでした。そんな時、役立ったのが、当センターの蔵書。ページをめくると、カビ臭く、健康を損なう恐れのある年代物の林業の専門書が数多くあります。

その中の一冊、『林業機械化ハンドブック』（３M研究会編 林業機械化協会 発行 昭和39年２月15日）の林業機械化の沿革の項には、

「戦前においては全く実験的に輸入・使用されていたにすぎなかったが、終戦後の昭和23年、当時進駐した米軍がチェーンソーを使用していたのをみて、まず富士産業三鷹工場はじめてチェーンソーの国産化に乗り出した。初の国産機は2馬力、重量30kgで、米軍使用のものとは米国本土においてあまり重すぎると、同じ機械に不慣れであることによるのと、あまりに普及するにはいたらなかった。日本人にとっては重すぎるのと、昭和28年になって著しく進歩した米国のチェーンソーが輸入され、重量も軽く、使用結果もよく、引続き多量に輸入されるようになったので、ここで欧米各種のチェーンソーを研究し、再び富士重工業株式会社においてチェーンソーの国産化を図り、昭和30年、外国製品に比べて遜色のない国産機が誕生するに至った。」とあります。

また、『伐木運材径営』（加藤誠平朝倉書店発行 昭和27年9月15日）には、林業機械要覧として、メーカーから資料の提供を受けたものが収録されており、初の国産機（2馬力、重量30kg）も「伐木造材用動力鋸」の名称で登場します。

用途として、「伐木、玉切、薪切等にその利用範囲は広く、捕鯨船の骨處理作業にも盛んに使用されています。」と書かれており、林業以外（山では海）でも使われていたようです。



初期の国産チェーンソー

なるほど、国産機は戦後作られたかと思いや、前述の『林業機械ハンドブック』には、「戦争中、化軍において製作されたものがあると気になる聞くが詳細は不明である。」と書かれています。アメリカ軍だけがそうですよね。そうでなることも持っているわけでもあるまいと思いべてみました。

日本軍といっても、対象となるのは当然陸軍であり、歩・騎・砲・工・輜・陸軍五大兵科の一つで、築城・架橋・坑道掘削・爆破等を任務とする技術兵科である工兵なら、大量の木材を使用することから、「軍におろうと見当をつけ、『工兵入門』（佐山二郎 光人社 発行 平成24年12月15日）を参考に、調査開始です。

昭和初期まで、工兵の装備していた木工器材は、鋸、鎌、鉈、斧などの臂力器材ばかりだったようです。（これだと森林事務所の装備と変わりません）

昭和7年頃から、工兵器材の研究開発が本格的に始まり、その後、兵器の発達につれて、工兵器材について大きな新考案を採用し、作業能力の増大とも、軍の機動に追随することが要求されるようになり、器材全般にわたる動力化にともない、木工器材とした「動力伐採機」、「動力製材機」が開発、整備されたようです。

1月・2月の予定

＊1月29日（木）～30日（金）
北の国・森林づくり技術交流会（北海道立道民活動センター「かでる2・7」）

＊2月1日（日）～2月28日（土）
釧路湿原自然再生事業紹介パネル展（シルバーシティーときわ台ヒルズ）

＊2月4日（水）
第5回ドングリ倶楽部

＊2月4日（水）
第14回フィールドワークショップ

＊管内の自然情報の収集や情報提供を行っています。下記のホームページを随時更新しておりますので是非ご覧下さい。

釧路湿原森林ふれあい推進センター
〒085-0825　北海道釧路市千歳町６番11
【IP】050-3160-5787【TEL】0154-44-0533【FAX】0154-41-7305
【E-mail】h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp
【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

国民の森林・国有林

当センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むＮＰＯ等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。